



保存会だより

2006.2.7
舞歌
舞伎
保存会

正月公演・酒田公演を開催します

今年も、恒例の正月公演（二月十五日・十七日）と酒田公演（三月五日）を開催します。今年の演目は「本朝廿四孝（ほんちようにじゅうしこう）」で、昭和五十七年以来、二十四年振りの上演になります。

今年は大寒波が襲来している影響で、久しぶりに雪の中での鑑

賞ができる可能性があり、期待が高まります。

二月五日には、少年歌舞伎に出演する児童と、役者全員が集まって「おさらい」を行い、動きや立ち位置などを確認しました。公演に向けて、座員の意気も高まってきています。

五十嵐智座長は、「今年は大雪



昭和 57 年の「本朝廿四孝」の公演の写真です。24 年前は、五十嵐智座長が横蔵を演じました。

で、座員が稽古に集まるのも大変な状況ですが、みんな一生懸命に頑張っています。ぜひ、我々の舞台を見にきてください」と語ってくれました。

これまでの活動を
ご紹介します。

十二月

三日（土）役割／配役や今後の日程が決まりました。

十五日（木）本読み／通して台本を読み合わせ、内容を確認しました。

一月

十四日（土）地固め／公演の打ち合わせ等の後、直会を行い、公演に向けて士気を高め合いました。

二月

三日（金）節分／豆まきの後、豆を焼き、その焼け具合で今年の天気占いを行いました。占いによると、今年は雨が多い年になりそうです。

四日（土）衣装出し／今年の演目の衣装を土蔵から出し、確認しました。

五日（日）おさらい／役者全員で通して稽古を行い、動きやセリフを確認しました。終了後、直会を行い、士気を高め合いました。

これからの活動を
お知らせします。

二月

十三日（月）花道づくり／舞台の花道を作ります。

十四日（火）寄せ太鼓／子どもたちが大入り祈願と宣伝のために太鼓を鳴らします。

十四日（火）あご別れ／正月公演の最終確認と成功祈願を行います。

十五日（水）正月公演

十七日（金）正月公演

十八日（土）勘定／精算などを行います。

三月

五日（日）酒田公演／ぜひ多くの方に鑑賞していただきたいので、会員の皆様からも、友人・知人、ご近所の方へ宣伝をお願いします。

十二日（日）太夫振舞／来年の演目を決めます。選者は、一週間精進した跡、水垢離を取り、神饌の儀を行います。

・・・今回の演目を紹介します・・・

ほんちようごじゆうごじゆう

本朝廿四孝

武田上杉両家は諏訪明神から武田へ賜った諏訪法性の兜のことで多事争っていた。ところがその頃、足利十二代義晴が何者かに暗殺された為、両家の戦を三年間休止し、暗殺者を捜査し叶わぬ時は互いに一子勝頼、景勝の首を打って渡す約束を交わす。

武田の奸臣、板倉兵部の好計によって我が子と取り替え実の勝頼を箕作として花作りとして育てた。三年後も未だ犯人が知れないので勝頼（身代わり）は切腹した。斎藤道三は義晴公の暗殺に成功し、更に武田、上杉をほろぼして天下を取るうとしたのである。

雪の中で竹の子を探す所や、景勝が老母に下駄を捧げるところなどは、中国の古い故事である廿四孝を模じったもので題も本朝日本版（廿四孝となっている。いたるところにからくりがあり複雑を極めた構成になっている。

一幕目 山本勘助住家の場

（約一時間四十分）

軍師で名高い山本勘助の住家、勘助はすでに亡く、兄の横蔵は傍若無人者、弟はそれにひきかえ母や兄に逆らうこともしない。兄の子次郎を育てる為に、兄の言う通り自分の子をも捨てるお人よし者だった。

三年も過ぎてても犯人を逮捕出来ず武田の勝頼は切腹した。景勝は自分によく似た横蔵を身代わりにする為にこの家を訪ねる。

舞台は竹原の中、慈悲蔵は老母に竹の子を喰いたいと無理を云われ雪の中竹の子を探しに行くが、もとより竹の子などある筈がなく、掘り出したのが勘助秘伝の軍略の書巻、横蔵が現れうばいあいになる。

母が現れ横蔵に景勝の替玉になれと言つが、横蔵はすでに武田の家臣、慈悲蔵は上杉の家臣であり敵対同士であった。横蔵は景勝と似た顔を変える

為片目をえぐった。山本勘助と名のつた武田、長尾の決戦は天目山に立てこもり出会う所は川中島。

二幕目 謙信館十種香の場

（約五十分）

八重垣姫は死んだと思っている勝頼の画像の前で十種香を焚いて回向をしている。

謙信公に抱えられ花作りになって入り込んだ箕作（勝頼）を見て、似た面差しのこの人をつとりもつてくれと腰元濡衣に云つ。

濡衣は武田の間者で諏訪法性の兜を盗み出さんと入り込んでいた。八重垣姫は思いとげ二人が寄り添う所へ謙信が出て勝頼を塩尻へ使者に立たせる。謙信は白須賀六郎、原小文治の兩人に勝頼を討てと命令する。